

「どんぶり感情」

その2

ハッピー、ハッピーバースデー

ホクレン 組織販売部
天野 道子

「胸が大きくなるかもしれない。」と、みんなにふれまわった。「幻の植物、巨乳イモ！ガウクルア」の粉を目の前にして舞い上がっていたかもしれない。もともと怪しい感じの情報が大好きだから、わくわくした。「で、飲んだの？」「いや、まだ。」「見てるだけじゃ、だめじゃない？」それで、次の日から飲み始めた。二日目にちよつとだけ疑った。ガウクルアが、イモってことは、この粉は片栗粉……？カプセルを十個ほど犠牲にして八宝菜にとろみをつけてみようと、思いついたがもったいなくてできなかつた。が、片栗粉と、いろいろ較べてみることにした。ついでに台所にあつたそれらしき粉類をすべて紙の上に並べた。片栗粉、小麦粉、白玉粉、きな粉、そしてガウクルア。何度も指をなめなめ検討したが、何もわからなかつた。ガウクルアの粉は、薄茶色で粒子が粗く繊維のようなものも混じつていていかにも植物っぽい。味は、悪くない。とりあえず、しばし飲みつつつけてみようと思う。

さて、前回のエッセイを書き終えたあと、のんびりしている場合じゃない事態が私を待っていた。人事異動である。部内異動なので、精神的には何の動揺もなかつたが、仕事の引継ぎ等でバタバタと日々が過ぎていった。春になると、すぐやってくる私の誕生日。今年は、大台記念で派手に騒ごう—と思っていたが、それとてではない。誕生日の前日になって友人から電話がかかってくる。お誕生日会おたんじりひをしてくれるとのこと。記念すべき四〇歳の誕生日をひとり淋しく迎えずに、すんだと感謝し、この日に飲もうと思つて、暑い夏を何度も乗り越えながら、いっしょに喜ぶしてきた私と同じ年のワインをそつとかかえて行つた。友人宅では、ヴーヴクリコのマグナムサイズがお風呂場のバケツに冷やされて私を待っていた。仕事を引き継いだ後輩がケーキを持って来てくれた。



天野 道子 (あまの みちこ) さん

恵庭市生まれ、余市町育ち。
 北海学園大学法学部卒業
 ホクレン農業協同組合連合会入会
 長く「グリーン」誌編集担当
 現在、組織販売部勤務。



シャンパンを飲み終えていよいよ「私のワイン」を味わう。四〇年立派に眠って来たかと心配しながら口に含む。「オーケーーんぜん大丈夫、まだまだ。」とワインの評価にはまったくふさわしくない表現でみんなにすすめる。「おいしい」と言われてなんだか自分がほめられているようないい気分だった。その日は、土曜日、夜更けとともにみんなのテンションは上昇し、それぞれが歌うウタダヒカルの曲と踊りがあちこちで渦を巻いていた。

この歳で「お誕生会」というのも気恥ずかしいが、五月と六月は、二週間ごとにだれかかれかの誕生日を祝ってパーティーが開かれ参加した。その中で、とても心に残ったパーティーがあった。お茶の先生の米寿を祝う会である。先生をお祝いし、ますますのご長寿を祈る気持ちが出席者全員ひとつになったような素晴らしい会だった。先生は、四〇年以上も前に車を運

転して、札幌の街中を家事や仕事のために走っていたカッコイイ女性である。今も凛とした姿がとても美しい先生を私は、尊敬している。ホテルの一室で立礼での呈茶があったが、お道具の取り合わせといい、お客様に着物や帯の柄にも「おめでたさ」が随所にあふれていた。お菓子は桃の形の「西王母」。西王母は、古代中国のはるか西に住むと伝えられた麗しい仙女。西王母のもとには大きな桃の木があり、三千年に一度、花を開き、不老長寿の靈験あらたかな果実を結ぶ。紀元前十世紀、周の王様が西方に旅をした際、かの仙女が姿を現して、王の優れた治世をたたえ、桃の実を捧げた——といわれのあるお菓子。米寿を迎えた先生にまさにふさわしいと思った。パーティーから帰って、先生から渡された箱を開けると、先生がお好きだった名物製の帯から作られた古帛紗だった。箱の上の熨斗紙には「松ノ葉」とあった。日

本の文化に感動しつばなしの一日だった。

そのお茶会で私がいただいたお茶は、飲んでみても泡ばかりかと思うほどお茶がよくたつていた。表面にふんわりと一様に細かい泡がたつた、こういう薄茶が私は大好きなのだが、あまりにもおいしい。泡に感動したせいか、ビールの泡もこうでなくつちやとか、ケーキを上手に作るためには卵白の泡立てをしつかりしなきゃとか、ソフトクリームだって空気の含有量がおいしさのポイントだったものとか、自分の好きなものが次々と浮かんできた。そして、ふと、ソフトクリームを食べ歩いた日々をなつかしく思い出したのである。

四年ほど前。その頃、北海道でソフトクリームがブームのさきしをみせていた。そこで、観光地小樽にあるホクレンの「ふつと館」でソフトクリーム屋さんをやってみようということになった。当時所属していた課の仕事は思いついたらすぐ実行というぐらいい早いペースでいろいろやってきた。ソフトクリームも秋の催事で中標津町農協に試験的に作ってもらったソフトミックスの味がよかったので、それをベースに味を決めて、春になったらすぐに開店することにした。それからしばらくの間、仕事が終わると毎日札幌で評判の店の味見をして歩いた。仕事のためというより趣味のようでもあったが、たかがソフトクリームであるが、なかなか奥が深いものだった。できあがりの温度によって舌を感じる甘さががったり、含まれる空気の量でもおいしさが変わってくるのだ。実は、今回の異動でまたふつと館の仕事に関わることになり、ソフトクリームを一日二個食べるという日が多くなってきた。仕事のため(?)とはいえ、もう若くはないのだから一日二個べらいにしなれば…。

さて、紙幅もなくなってきたの

でガウクルアの結果報告。その後、ガウクルアについて、正確な情報を知ろうとインターネットをのぞいてみた。二四八件もの情報があった。それによると、ガウクルアは、豆科の植物で、学名フエリリア・ミリフィカというそうである。八割の女性にバストが大きくなる効果が見られたそうであるが、私についても、先日友人たちと行った温泉で、胸が若干大きくなっていると確認された。しかし、入浴

前にこっそり計った体重を知る私はガウクルアよりソフトクリームのほうが効果があったら嬉しいと確信していた。

